

シンプレックス法

標準形

$$\max \sum_{j=1}^n c_j x_j$$

subject to

$$\sum_{j=1}^n a_{ij} x_j \leq b_i, \quad i = 1, \dots, m$$
$$x_j \geq 0, \quad j = 1, \dots, n$$

- 最小化問題の場合-1倍して最大化問題へ
- 非負制約のない時は非負制約のついた2つの変数を用いて $x_j = x_j^+ - x_j^-$ とする
- 等式制約 $\sum_{j=1}^n a_{ij} x_j = b_i$ は $\sum_{j=1}^n a_{ij} x_j \leq b_i$ と $\sum_{j=1}^n a_{ij} x_j \geq b_i$ に置き換える
- 不等号が逆向きなら両辺を-1倍する

概要

- 非負制約以外の制約がm本、変数がn本の時、実行可能領域はn次元空間内の凸多面体となる。
- 最適解が存在するとき、少なくとも1つの最適解は凸包の端点上にある。(凸包が有界な時)
- シンプレックス法はある端点から出発して、制約式を1本のみ入れ替えて隣の端点へ移動していく

方法

- 不等式制約に対してスラック変数を導入する。
- スラック変数を含めてm+n個の変数の中から、制約の本数に対応するm個の変数を基底変数として選び、それ以外の変数(非基底変数)を0にすることにより、基底変数が定まる。
- 目的関数は非基底変数と定数項の線形和で表され、非基底変数の係数が正であるとき、まだ増やせる余地があることを意味する。よってこれを基底変数に追加し、基底変数から1つ削除する。この時削除するのは、一番早く非負制約が効いてしまうものにする。
- これを繰り返す。

原理

- スラック変数を入れたうえで行列表記すると定式化は以下になる.

$$\max c^T x$$

subject to

$$\begin{aligned} Ax &= b \\ x &\geq 0 \end{aligned}$$

- 要素数 m の基底変数ベクトル x_B , 係数ベクトル c_B , $m \times m$ の部分行列 B を設定
- 要素数 $n-m$ の非基底変数ベクトル x_N , 係数ベクトル c_N , $m \times (n-m)$ の部分行列 N を設定
- 特に B が正則であるとき, B を基底行列, N を非基底行列といい, これらはもともとの制約の行列 A の列を構成するものであり, 以下が成り立つ.

$$Ax = (B \ N) \begin{pmatrix} x_B \\ x_N \end{pmatrix} = Bx_B + Nx_N = b \quad (1)$$

- 同様に目的関数は以下になる

$$z = (c_B^T \ c_N^T) \begin{pmatrix} x_B \\ x_N \end{pmatrix} = c_B^T x_B + c_N^T x_N \quad (2)$$

- (1)式の両辺に左から B^{-1} をかけて

$$x_B = B^{-1}b - B^{-1}Nx_N \quad (3)$$

- (3)式を(2)式に代入して

$$\begin{aligned} z &= c_B^T (B^{-1}b - B^{-1}Nx_N) + c_N^T x_N \\ &= c_B^T B^{-1}b + (c_N^T - c_B^T B^{-1}N)x_N \end{aligned}$$

- よって基底解に対応する辞書は

$$\begin{aligned} z &= c_B^T B^{-1}b + (c_N^T - c_B^T B^{-1}N)x_N \\ x_B &= B^{-1}b - B^{-1}Nx_N \end{aligned}$$

- $x_N = 0$ と固定すると基底変数が $x_B = B^{-1}b$ と一意に定まる.

求解アルゴリズム

追加する非基底変数の選び方

- 非基底変数の係数 $\bar{c}_N = c_N^T - c_B^T B^{-1}N$ がポイントで, これを被約費用(reduced cost)という
- また, $\bar{b} = B^{-1}b$, $\bar{N} = B^{-1}N$ とすると, 辞書は以下のように書き換えられる.

$$z = \mathbf{c}_B^T \bar{\mathbf{b}} + \bar{\mathbf{c}}_N^T \mathbf{x}_N$$

$$\mathbf{x}_B = \bar{\mathbf{b}} - \bar{\mathbf{N}} \mathbf{x}_N$$

- $\bar{\mathbf{c}}_N$ は上式の通り，対応する非基底変数を1増やした時目的関数がどれほど改善するかを表している．
- よって最大化問題においては，最大の \bar{c}_j をもつ非基底変数 x_j を，他の非基底変数を0に保ちながら新たな基底変数として追加すればよい．
- 最終的に $\bar{\mathbf{c}}_N \leq 0$ となれば終了．

削除する基底変数の選び方

- 新たに x_k を基底変数に追加することを考える． $\bar{\mathbf{a}}_k$ を x_k に対応する $\bar{\mathbf{N}}$ の列とすると，目的関数と基底変数の値は以下ようになる

$$z = \mathbf{c}_B^T \bar{\mathbf{b}} + \bar{\mathbf{c}}_k \theta$$

$$\mathbf{x}_B = \bar{\mathbf{b}} - \bar{\mathbf{a}}_k \theta$$

- $\mathbf{x}_B \geq 0$ を満たす必要があるので，非基底変数 x_k の値は

$$\theta = \min \left\{ \frac{\bar{b}_i}{\bar{a}_{ik}} \mid \bar{a}_{ik} > 0, i \in B \right\}$$

までしか増加できないことがわかる．

- $\frac{\bar{b}_i}{\bar{a}_{ik}} = \theta$ を満たす基底変数 x_i の値は0となり，基底変数と非基底変数が入れ替わる．

改訂シンプレックス法

- 実際に必要な情報は，被約費用 $\bar{\mathbf{c}}_N$ と $\bar{\mathbf{c}}_k > 0$ を満たす非基底変数 x_k に対応する列 $\bar{\mathbf{a}}_k$ だけである．
- そこで，まず $\mathbf{y} = (\mathbf{B}^{-1})^T \mathbf{c}_B$ を計算して， $\bar{\mathbf{c}}_N = \mathbf{c}_N^T - \mathbf{N}^T \mathbf{y}$ を計算する．このとき \mathbf{y} は双対変数であり，潜在価格(シャドウコスト)という．

双対問題との関連

- 主問題 P_1

$$\max \mathbf{c}^T \mathbf{x}$$

subject to

$$\mathbf{Ax} = \mathbf{b}$$

$$\mathbf{x} \geq \mathbf{0}$$

に対する双対問題 D_1

$$\min. \mathbf{b}^T \mathbf{y}$$

subject to

$$\mathbf{A}^T \mathbf{y} \geq \mathbf{c}$$

を設定する.

弱双対定理

\mathbf{x} と \mathbf{y} がそれぞれ P_1 , D_1 の実行可能解ならば, 以下が成り立つ

$$\mathbf{c}^T \mathbf{x} \leq \mathbf{b}^T \mathbf{y}$$

(証明)

$$\mathbf{c}^T \mathbf{x} \leq (\mathbf{A}^T \mathbf{y})^T \mathbf{x} = \mathbf{y}^T (\mathbf{A} \mathbf{x}) = \mathbf{b}^T \mathbf{y}$$

強双対定理

主問題 P_1 に最適解 \mathbf{x}^* が存在するとき, 双対問題 D_1 にも最適解 \mathbf{y}^* が存在し, 以下が成り立つ.

$$\mathbf{c}^T \mathbf{x}^* = \mathbf{b}^T \mathbf{y}^*$$

(証明)

最適値は以下のように表せる.

$$\mathbf{c}^T \mathbf{x}^* = \mathbf{c}_B^T \mathbf{B}^{-1} \mathbf{b} + (\mathbf{c}_N^T - \mathbf{c}_B^T \mathbf{B}^{-1} \mathbf{N}) \mathbf{x}_N^*$$

\mathbf{x}^* は最適基底解なので $\overline{\mathbf{c}_N^T} = \mathbf{c}_N^T - \mathbf{N}^T (\mathbf{B}^{-1})^T \mathbf{c}_B \leq 0$ が成り立つ.

$\mathbf{A} = (\mathbf{B} \ \mathbf{N})$ より以下が成り立つ.

$$(\mathbf{c}_N + \mathbf{c}_B) - \mathbf{c}_B - \mathbf{N}^T (\mathbf{B}^{-1})^T \mathbf{c}_B = \mathbf{c} - \mathbf{A}^T (\mathbf{B}^{-1})^T \mathbf{c}_B \leq 0$$